



## 溶接学会若手会員の会 第 65 回運営委員会開催報告

副委員長 鳥形 啓輔 (株式会社 I H I) ・ 鴫田 駿 (東北大学)

Report of the 65th meeting of WELNET steering committee  
by TORIGATA Keisuke and TOKITA Shun

2021 年 10 月 11 日[月]に、溶接学会若手会員の会 第 65 回運営委員会を開催しました。これまでの全国大会期間に合わせた対面での開催ではなく、前回の運営委員会と同様、テレビ会議ツールを活用したオンライン会議により実施いたしました。以下に当日の報告および審議の主な内容についてお知らせいたします。

日時：2021 年 10 月 11 日 [月] 10:00-11:00

場所：Cisco Webex Meeting を用いたオンライン開催

出席者 (敬称略)：

庄司 (大阪大学)、鴫田 (東北大学)、鳥形 (IHI)、松田 (大阪大学)、久保 (岩手県工業技術センター)、本間 (日本製鋼所 M&E)、山本 (大阪大学)、笠野 (住友重機械工業)、古免 (大阪大学)、山下 (大阪大学)、劉 (大阪大学)、荻野 (大阪大学)、浅間 (三菱電機)、阿部(埼玉大学)、伊與田 (大阪工業大学)、尾崎 (三重大学)、北野 (物質・材料研究機構)、清水 (大阪大学)、崔 (広島大学)、三浦 (大阪大学)、三輪 (神戸製鋼所)、宗村 (JFE スチール)、渡邊 (JFE スチール)

出席 23 名、委任 9 名 (運営委員総数 38 名)

資料：

welnet 65-0 議案

welnet 65-1 第 64 回運営委員会議事録 (案)

welnet 65-2-1 2021 年度上期活動報告・2021 年度下期活動計画

welnet 65-2-2 運営委員名簿

welnet 65-3 溶接学会若手会員の会第 65 回運営委員会 会計報告資料

welnet 65-4 全国大会イベント担当報告関係

welnet 65-5① 若手 Gr.溶接学会誌スケジュール

welnet 65-5② 若手 Gr.担当 溶接学会誌 91 巻 6 号特集記

事の企画案

welnet 65-6 広報・ML 担当報告

welnet 65-7 研究会・施設見学会関係

welnet 65-8 若手の会 勉強会について

welnet 65-11 溶接学会若手アウトリーチ活動報告

### 【審議・報告事項】

議事に先立ち、庄司委員長より、2021 年度下期からの新委員下記 3 名が紹介され、併せて自己紹介をいただいた。

崔 正原 (広島大学)

宗村 尚晃 (JFE スチール)

渡邊 一史 (JFE スチール)

### 1. 第 64 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録の確認・承認 (庄司委員長)

庄司委員長より、welnet 65-1 に基づき、第 64 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録(案)の報告がなされた。本議事録案はその後の決議により承認された。(運営委員数：38 に対し、承認：23 名、委任：9 名、無回答：6)。

### 2. 2021 年度上期活動報告・2021 年度下期活動計画 (庄司委員長)

庄司委員長より、welnet 65-2-1 に基づき、2021 年度上期活動報告・2021 年度下期活動計画の報告がなされた。4 月 27 日の前回運営委員会後に開催された種々のイベントについて概要が報告された。2021 年度下期もすでに複数のイベントが企画、準備中であることが報告された(詳細については、各担当委員から報告)。

### 3. 会計報告 (山下委員)

山下委員より、welnet 65-3 に基づき、2021 年度上期の予算使用状況について報告がなされた。上期は新たなメー

リングリストサービスへの切り替えによる利用料の支払いを除き大きな支出はなかった。下期は WEB 会議費用および WELNET の WEB ページの更新費用が発生する予定であることが報告された。庄司委員長より、今後 WEB ページの更新内容の検討、見積りに着手することが周知された。

#### 4. 全国大会関係（松田委員）

松田委員より、welnet 65-4 に基づき、秋季全国大会のイブニングフォーラムとして開催したポスターセッションが盛況のうちに無事終了されたことが報告された。併せて審査員として協力いただいた若手会員の会の委員に謝意が示された。なお、ポスターセッションでは 42 件の発表があり、それらを 8 ブロックに分けて審査が行われた。当日の参加者数は 112 名であった。また、ポスターセッションに使用した WEB 会議ツール「Remo Conference」に対する参加者の評判も良好であったことから、今後も同ツールを使用する計画である。

2022 年度春季全国大会のイブニングフォーラムの内容については現在検討中であり、希望や意見があれば挙げるよう依頼がなされた（※次回もオンライン開催となる見込みである）。出席した委員からは、以前実施した「企業側のニーズと大学側のシーズのマッチングを狙った企画」が良かったので、また同様の企画をしてほしいとの要望が示された。

#### 5. 溶接学会誌若手ページの編集関係（山本委員）

山本委員より、welnet 65-5 に基づき、溶接学会誌における若手会員の会担当ページの状況について報告がなされた。Spot Light（溶接タマゴ、私の溶接履歴書）、じょうほう通の各記事は執筆者が当面充足されていることが報告された。一方、依然として執筆候補者が少ない状況は続いていることから、委員の身近に執筆者として好適な方がいれば推薦して欲しいとの呼びかけがあった。

溶接学会誌 第 90 巻 4 号の特集記事に対するアンケート結果の紹介では、読者から「わかりやすかった」などの意見が寄せられており、「インタビュー形式」の構成が好評につながったものと考えられる。このため、今後の特集記事では同様にインタビュー形式の構成とすることを検討している。なお、特集記事の内容については、2 年に 1 回程度の頻度で、若手の委員から溶接関係の受賞者が現れた場合に、受賞者に記事執筆を依頼する計画であることが紹介された。

#### 6. 広報・ML 関係（劉委員）

劉委員より、welnet 65-6 に基づき、新たなメーリングリストサービスへの移行が完了したことおよび新メーリングリストによる配信状況について報告がなされた。

#### 7. 研究会・施設見学会（古免委員）

古免委員より、welnet 65-7 に基づき、上期はオンラインで第 1 回研究会を開催したことが報告された。下期は、12 月と 3 月に研究会を開催する計画であり、それぞれ 3 件の講演を行う予定である。12 月の研究会の講演者の募集を近

日中に行うので、講演者として若手会員の会のメンバーの積極的な参加が呼びかけられた。施設見学会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない状況を踏まえ、当面実施しないことが報告された。

#### 8. 勉強会（鵜田委員）

鵜田委員より、welnet 65-8 に基づき、勉強会の実績と計画について報告がなされた。勉強会は、一般的な研究発表との差別化を意識しており、参加者同士のディスカッションを中心としたイベントとして企画している。上期は 5 月 10 日に第 1 回勉強会を開催し、鵜田委員と庄司委員長から話題を提供して参加者でディスカッションを行った。その後、参加者からは本企画に対してポジティブなコメントが寄せられた。次回の勉強会は 11 月 5 日を予定している。なお、勉強会と関連した活動である「出前講義」について、対面での開催を前提としていることから、対面開催が可能な教育機関等についての情報があれば提供するように、委員に呼びかけが行われた

#### 9. GN 活動（荻野委員）

荻野委員より、口頭にてグローバルネットワーク活動について報告がなされた。上期は GN 活動の実績はなく、下期の GN 活動に関する話題として、10 月 20 日から YPIC が開催されることが紹介された（一昨年前の YPIC に若手会員の会から委員を派遣した実績がある）。本年度の YPIC はオンライン方式と対面方式を併用して開催され、参加希望者は誰でも無料で参加登録して会議を聴講可能である。

荻野委員からの報告の後、今後の GN 活動のあり方について議論が行われた。荻野委員から、若手研究者間の交流という目的に YPIC は適さないのではないかと意見が示され、それに対して他の委員から、YPIC 以外の活動に目を向けたほうが有意義ではないかといった意見や、各地域の若手の集まりを通して交流はできないかといった意見が出た。また、荻野委員から、現状では GN 予算に余裕があり海外から講演者を招聘して若手会員の会でイベントを主催することも可能であること、IIW2022 の開催に合わせて若手会員の会でイベントを企画してもよいのではないかと意見が出た。これに対し庄司委員長から、現在のところ IIW2022 の実行委員会から若手会員の会にイベント企画の要請はないことが報告された。一方でコロナ収束を見据え、対面での独自イベントの検討をはじめてもよいのではないかと考えが示された。

#### 10. アウトリーチ活動関係（笠野委員）

笠野委員より、welnet 65-11 に基づいて、溶接学会若手アウトリーチ活動の進捗および今後の計画について報告がなされた。アウトリーチ活動の開始にあたり、PEST 分析、SWOT 分析を実施して溶接学会の置かれた状況を把握し、クロス SWOT 分析により活動戦略策定を行ったことが報告された。アウトリーチ活動の基本計画として、3 つの Step で活動を実施することを検討中であり、Step 1 の活動内容として、日本溶接協会誌に若手 Spot Light 記事を他誌に転

載する考えが紹介された。今後の計画として、Step 1 実施に向け日本溶接協会とのコラボレーションを打診することとし、10 月から 11 月にかけて日本溶接協会との協議を行う予定である。

笠野委員からの報告を受け、Spot Light 記事の他誌への転載が、記事の内容的にアウトリーチ活動とマッチしているのか、といった指摘がなされた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面での活動が制限される中、若手会員の会ではオンラインでのイベント開催が軌道に乗りつつあります。施設見学会、出前講義、GN 活動などの方策については、さらに検討が必要ですが、各機関の若手の研究者間の交流のさらなる活性化を目指し活動を展開してまいります。今後も若手の会の活動にご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上